

近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究(ホ06)

目 的 近代の文化遺産は、絵画、彫刻、木造建造物等従来の文化財とは、規模、材質、製造方法等に大きな違いがあるため、その保存修復方法や材料にも大きな違いがある。本研究では、近代の文化遺産の保存修復を行う上で必要とされる材料と技術について調査研究を行う。具体的には、大型建造物の劣化機構の解明とその修復方法の究明、航空機、船舶、鉄道車両等の保存修復上の問題点とその解決方法の究明を目指している。

成 果

1. 近代の建造物（洋館）の内部造作の保存修復に関する研究
近代の建造物（洋館）に付属する内部造作の保存修復に関する現状の課題を踏まえ、国内に所在する約35件（函館区公会堂、豊平館等）の現地調査を行い、実態把握と事例調査を行った。
2. 近代文化遺産の保存活用に関して地方自治体が組織する調査検討の委員会への参画
全国各地の自治体が組織する近代文化遺産の保存活用に関する調査検討委員会に委嘱を受けて参加し、近代文化遺産の保存と修復に関する調査、助言を行った。
3. 産業考古学会2019全国大会において論文の寄稿と発表
2019（令和元）年11月に開催された産業考古学会2019全国大会（中間市大会）において「煉瓦造建造物の補修方法に関する一考察 煉瓦転用補修の可能性」と題する論文の提出及び発表を実施、煉瓦造建造物の修理に関する提言を行った。
4. 報告書の刊行
平成30年度に実施したコンクリート造建造物の保存と修復に関する研究内容を報告書に取りまとめた。また、同年に実施した「台湾における近代文化遺産活用の最前線」も報告書に取りまとめて刊行した。

報 告・石田真弥ほか：「煉瓦造建造物の補修方法に関する一考察 煉瓦転用補修の可能性」『産業考古学会2019年度全国大会（中間市大会）研究発表講演論文集』 pp.30-33 19.11

・石田真弥：「コンクリート造建造物の保存と修復に関する事例集」『未来につなぐ人類の技 19 コンクリート造建造物の保存と修復』 pp.83-113 20.2

・石田真弥：「近代文化遺産としての森林軌道（第1回）」『洋上アルプス』291 p.3 19.6

・石田真弥：「近代文化遺産としての森林軌道（第2回）」『洋上アルプス』292 p.3 19.7

発 表・石田真弥ほか：「煉瓦造建造物の補修方法に関する一考察 煉瓦転用補修の可能性」『産業考古学会2019全国大会（中間市大会）』 19.11

刊行物・『未来につなぐ人類の技 19 コンクリート造建造物の保存と修復』 20.2

・『台湾における近代文化遺産活用の最前線』 20.3

研究組織 ○早川泰弘、中山俊介、石田真弥、鳥海秀実（以上、保存科学研究センター）、簡佑丞、苅田重賀、小堀信幸、堤一郎（以上、客員研究員）、鈴木一義（国立科学博物館）